

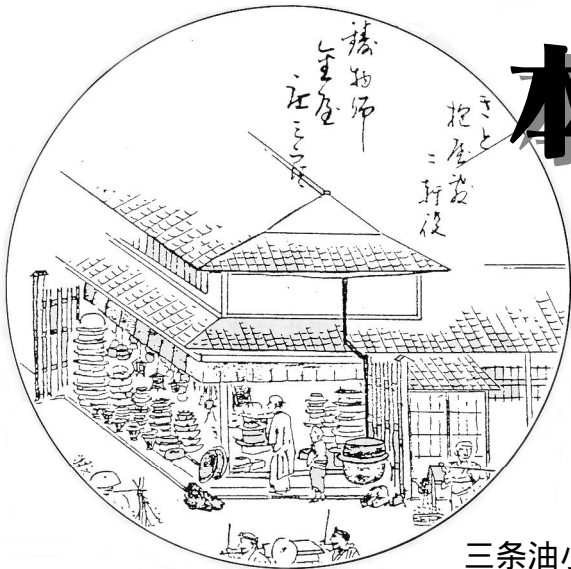
# 本能まちづくりニュース

## 第43号 平成20年3月3日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net  
URL: http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページをご覧ください。



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

## のれんの似合うまちづくりを ～第3回イベント大賞制作賞受賞～



この度、本能まちづくり委員会主催のイベント「おいでやす染のまち本能」が第3回イベント大賞制作賞(社団法人日本イベント産業振興協会主催)を受賞しました。

日本イベント大賞は日本で唯一の総合的イベントの表彰制度で、国内で最も優れたイベントやイベントの制作者を表彰し、イベントの発展およびイベントによる産業振興をはかることを目的としています。

大賞応募のきっかけは、賞のひとつである制作賞の副賞が100万円であることでした。受賞できれば副賞を原資に充実した活動が可能となります。これまでのイベント内容からみて十分受賞が狙えると判断しました。昨年9月、応募すると決めてから資料提出期限まで3週間弱。時間がない中での準備作業となりました。

応募数は合計116件あり、第1次審査では67のイベントに絞り込まれ、部門賞・大賞の2次審査では各部門3作品の計9作品が、制作賞では11作品が選ばれ、最終審査委員会に送られました。「おいでやす染のまち本能」はプレゼンテーションが必要な最終審査に「部門賞・大賞」「制作賞」の両部門にノミネートされました。

「部門賞・大賞」とは? 3つの応募の部門(企業販促部門、社会貢献部門、地域振興部門)を設け、各部門で最も優れた作品に部門賞が贈られます。大賞は部門賞の中で最も優れたイベントの中から1本が選ばれます。表彰はトロフィーと表彰状です。

「制作賞」とは? 部門に関係なく全作品の中から3作品。イベントの企画、制作、実施に貢献した人またはグ

ループに送られます。表彰は楯及び表彰状と副賞の100万円です。

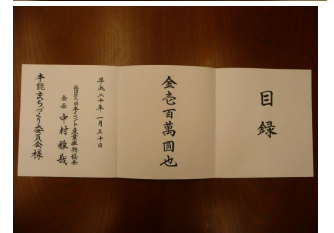
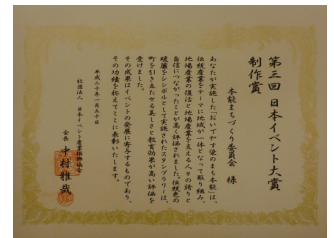
各賞の最終審査は東京で11月20日と27日と、異なる日に異なる審査員によって行われるため、部門賞・大賞は中村副委員長が行うことになりました。説明時間が7分以内ということで何度もリハーサルを重ね、さらに東京往きの新幹線の中でも入念な説明の時間配分調整を行いました。

制作賞審査員は大手広告代理店、テレビ制作会社の関係者などで合計7名。プレスやオブザーバーもたくさんおられ、熱気に包まれていました。審査会場に入室後、のれんを黒板に掛けたり資料配布など準備しました。パソコンの接続が悪く5分ほど事務局が手間取られていました。その間に準備した資料を審査員が読み込まれていました。

いざ準備整い、プレゼンテーションスタート。まちづくり委員会設立の経緯からイベント内容、染めのまちの景観にはのれんが似合うということ、西嶋委員長は時間内に落ち着いて説明しました。最後に「おいでやす染のまち本能はイベントのためのイベントではありません。新旧住民が自分達のまちの特色を知り、誇りをもって交流するための行事です。本能に咲くのれんの華が、京都のまちなみ景観づくりを考える契機ともなり、さらに近隣地域にこの思いが広がることを願っています」と、本能まちづくり委員会の活動意図を伝えました。

続いて質疑応答です。質疑内容は

1. 質疑ではないがスタンプ色が沢山あるのは驚きだ。
2. まちづくりをされていて大変なことは何か。
3. イベント費用はどうされているか。
4. 京都はよそ者を受け入れない土壌があるが、マンション住民と地元民はうまくやれているのか。



5. 参加者の地元とそれ以外の構成比はどうか。
6. 開催日はいつであったか。来場者は何人か。
7. 内容が充実しているのにPRが行き届いていない。本音、外部の人に来てもらいたくないという意識はないか。
8. マイキモノプロデュースの制作費、制作期間を教えてください。
9. イベントを行う上でのマイナス点はないか。

以上、すべて西嶋委員長が的確に回答しました。

7の回答として「そのようなことはない」と説明した後、「地域の小中学生など200人以上の子供たちが参加するなど、どんどん輪が広がっている。参加した小学校の校長先生からはトイレの入口に扉がないため中が見える。伝統色のれんをトイレに掛けられればとお願いされている。そのためにも賞金のいただける制作賞が必要なんです!」と。審査員一同大爆笑でした。印象としては大変に興味を持っていただいている様子で、結局5～6分は質疑応答時間をとっていたと思います。

そして、めでたくプレゼンテーションの翌日に、制作賞受賞の連絡が入りました。評価理由は下記の通りです。

☆伝統工芸をテーマに地域が一体となって取り組む活性化イベント。地場産業の素晴らしさに着目した住民が主体となり、染職人との協力体制を確立した点は評価が高い。美しい古代色のれんを巡るスタンプラリーや染体験をはじめ、参加者に手染めの魅力を伝えるメニューも充実している。染職人の誇りと自信を導き出す契機にも結び付き、地域活性化の典型のひとつと言える。



授賞式は、本年1月30日に、東京のロイヤルパークホテルで行われました。壇上では、本物の土器(かわらけ)や木賊(とくさ)を手に、伝統色のれんの色の読み方を披露しました。また副賞100万円の使い道についても質問され、西嶋委員長は「のれんの華のイベントに参加した地域の小学校から、学校のトイレの入口に伝統色のれんをかけたいと相談を受けていた。地域で頂いた賞なので、地域の小・中学校にのれんを寄贈したい」と答えました。

歓談中には、イベント学会会長の堺屋太一氏が、日本



の伝統色の染めに興味を持たれ、上海万博に活用できないか等、西嶋委員長たちと意見の交換をしました。

会場のロビーでは、各受賞イベントのパネル展示が行なわれ、本能まちづくり委員会も「本能に咲くのれんの華」をアピール。次回3月20日開催の「本ものに出会える日」でもこのイベントを実施するとPRしてきました。

そして2月1日に本能自治会館で、「おいでやす染のまち本能」のイベント大賞制作賞受賞お披露目会と喜びを分かち合う会を行いました。まちづくり委員会のメンバーと関係者だけではなく、まちづくり委員会発足当時に関わって下さっていた方達も大勢みえました。受賞でき



たのも、これまで関わっていただいた多くの方々のご尽力があつてのことだと再認識しました。

なお、2月8日には高倉小学校へ15枚、御池中学校へ16枚、

2月14日には高齢者福祉施設本能へ11枚、木賊・牡丹・支子など10色の伝統色のれんを寄贈しました。

今後、いただいた賞金を活動の原資として、さらによりよいまちづくりを目指していきたいと思ひます。来る3月20日伝統産業の日に、「本ものに出会える日～おいでやす染のまち本能～」を開催します。制作賞受賞のこのイベントに是非お越しください。(mm)

### のれんご寄付のお礼

この度、本能まちづくり委員会から当施設に11枚ののれんをいただきました。正面玄関と各ユニット玄関に掲げさせていただいております。詳しくは、当施設のホームページでもご紹介させていただいております。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。  
 <<高齢者福祉施設本能 施設長 宮本龍家>>



## ◆◆◆◆ 第四回 町家探訪 ◆◆◆◆

### 京町家に住み続けて一原田家訪問一

昭和20年、明治以来続いた諸外国との長い戦争の時代は終わりました。

昭和20年以前に建った庶民の家は、殆ど通り庭形式で、通り庭がないと大小便の汲取りが出来ませんでした。この様な戦前に建った木造の家を町家と言う事にしています。平成19年現在本能学区で、マンションでない一戸建ての建物の戸数は608戸、その内、前記町家の戸数は350戸程です。実に一戸建ての建物では

その半数以上が、昔からの町家に住んで居られます。

ところで、1年程前の話ですが、たまたま油小路通を通りかかって、原田さんのお宅が改修されているのを目にしました。施工会社が私的に一寸した知り合いなので、工事を見せて頂けないかと話しかけたことがきっかけとなり、原田さんのご厚意にも与り、まちづくり委員数人で、去年の3月中頃に工事中のお宅を拝見させて頂くことが出来ました。



その時期は工事の初期で、床・壁・天井等の仕上材をすべて取り払い、柱・梁・壁等、建物構造本体が露出している時期で、柱の根元の状態、不等沈下の状態、柱の倒れの状態などが明瞭にわかりました。柱下の基礎石をコンクリートで固め、必要な場合は柱の根継ぎをし、水平・垂直を直すと建物は見違えるように「しゃん」と



し、見るからに丈夫になった様気がします。町家は柱と梁の接合部分が、金物を使わず、堅木の「込栓」等を使って組み立てられており、これを生かしながら柔らかくて丈夫な土壁を、片寄らずにバランスよく造ることで、地震に対して柔軟な力を発揮し「ある程度傷んでも崩れない建物」が出来ると考えられています。

そのような話を工事の担当者の方と話し合いながら、大正時代に建てられた建物が、現代の生活様式にも適応した町家として出来上がることを楽しみに、その日は失礼しました。

その後 3 ヶ月程して、入居引越直前のある日、再度拝見させて頂く機会がありました。表はべんがら格子・一文字瓦葺で、かなり傷んでいた格子を、きれいに格調高く改修されていました。玄関を入ると、表の間と中の間を一体とした 12 帖の広い部屋が出現します。床は桧板張り、天井は大和天井、壁面は玄関土間の右側が昔ながらの土壁、表側はガラス障子、正面は丸棧の舞良戸(まいらど)と新設の化粧階段、奥は襖を隔てて奥の間へと続



きます。もともとの通り庭部分は床面と同一レベルに改修され、立派な今風の現代的台所が新しく造られています。台所の続きに洗面・洗濯・脱衣・浴室と連なり、その奥が便所・多用な物干し場となっています。庭は石組のある和風の庭で、その奥はその時は広い空地でした。2 階は一部にパソコン室等がある他は、出来るだけ元の形に忠実に改修され、美しい木彫りの欄間も残っていました。全体に古風な道具立ての中、新しいダイニングキッチン等で、どの様に現代生活を演出されていくのか、大変楽しみなところですよ。

我々の日常生活の中には「和」の遺伝子がいっぱいあると思います。私は「和」の心は、ゆとりともてなしの心ではないかと思っています。過日、嵐山天龍寺の塔頭・宝殿(ほうごん)院の書院を拝見させて頂き、感服しました。この書院は大正 8 年に建てられた数寄屋風の建物ですが、そこにあるものは職人さんの心意気とスポンサーの遊び心が結実したものと思いました。町家と数寄屋とは違いますが、これまでの効率一本やりの方向ではなく、「和」の遺伝子を日常生活の中で生かして行こうとする動きが、私達の周辺にも出て来ているのではないかと思います。原田家訪問からやや脱線しましたが、町家への思いが、「和」の入口につながっているような気がします。住まいの中まで快く拝見させていただいて、本当に有難うございました。(O i)



## 区民誇りの樹木

[平成 19 年 6 月 27 日 山田町の村田茂雄様からご投稿いただきました。]

樹木は私達の心を癒(いや)してくれます。そこで私、わがまち本能学区と隣接する地区での区民誇りの樹木を紹介したいとおもいます。

### A 堀川高校本能学舎の桜・ソメイヨシノ



平成 13 年までは、3 本の桜があり、学区の方々が 4 月には連日お花見会をされ親しまれていた存在でした。元本能小学校の学舎・桜の写真は、本能特別養護老人ホーム 2 階油小路 3 ユニットにあります。但し、勝手に見に入ることはできません。

### B 瀧田稲荷神社のオガタマの木

春、黄白色の小さな花を開く常緑高木。葉は厚くてつやがあり、よく神社の境内に植えられています。モクレン科

### C 京都通信(ていしん)病院のイチヨウ (六角通新町西入る)

三井銀行発祥の地、旧財閥三井家お屋敷跡。平成 17 年 6 月、大きくなりすぎていたので、ばっさり切られ随分低くなりました。それまで多くの

方が銀杏(ぎんなん)の実を拾いにこられ楽しみにされておりました。

ここ通信病院の桜、ソメイヨシノ。隣接する不動町の方からも、こんな立派な桜があるとは知らなかったと、今年 4 月 4 日、ライトアップさせてもらいました。中京区役所まちづくり推進課山川様に区民誇りの木への登録お願いしました。今年の 4 月 25 日 NHK 京都放送局ニュース 610 “京いちにち” お便りコーナーで、本能学舎の桜・京都通信病院の桜、綺麗に咲いています写真、放送していただきました。どちらも私、剪定(せんてい)土壤改良とお世話しております。

山田町 村田 茂雄

村田さんの原稿は本能まちづくり委員会ホームページに掲載しています。来る 3 月 24 日午後 9 時、KBS 京都テレビ“京のいっぴん物語”で、本能学区の鍾馗さん(本能まちづくりニュース 39 号掲載)のいくつかの映像が紹介されるそうです。

### B のオガタマの木



### 通信病院のソメイヨシノ



京都市は緑化推進事業の一つで、各区民から「次世代に引き継いでいきたい、まちの誇りの木」の推薦を募り、区民の代表と専門家からなる委員会で「区民の誇りの木」を選定しました。中京区では平成12年1月から5月の応募期間に94件の応募があり、そのうち68件が選ばれ、平成13年4月写真集『区民の誇りの木・中京区』が発行されました。烏丸以西堀川以东地域で選ばれた中に、村田さんが紹介されたAソメイヨシノ・Bオガタマノキ・Cイチョウが入っています。(N村)

## 学区情報

### 高齢者福祉施設本能から

今回は、「本能まちづくりニュース」の紙面をお借りして、本能にお住まいの方々の介護に関する相談など、どこに・どのようにすればいいのかといったお声にお応えさせていただきます。

#### 地域包括支援センター（当施設1階事務所内）

地域包括支援センターでは、高齢者の介護に関する相談や、保健・医療・福祉の相談など日頃の生活に必要な事からのご相談をお受けしています。

- ・親の介護で悩んでいる
- ・親戚にも相談しにくい
- ・こんな事を誰に聞けばよいのか・・・

などなど、本能学区にお一人でお住まいの高齢者の方や介護保険というのは知っているけど、実際に使うのに抵抗があったり、実際にどのようにすれば良いのか分からない方々も、介護に関することであれば、お一人で悩まずに、気軽に当施設にご相談ください。

### 本能学区成人式

1月14日本能学区成人式が自治会館で行われました。自治連合会が把握した今年の学区新成人は20名。そのうち男性2名女性7名が親御さんとともに出席されました。昭和62年4月から63年3月生まれです。(高倉西小学校に入学、2年生より統合成った高倉小学校進級の学年に該当します。)

9時30分より会議室で木村中京区長・平野自治連合会長・宮本「本能」施設長から来賓の祝辞をうけ、11時より八坂神社の成人祭に参列。その後常盤新殿で懇親会をもちました。新成人の一人が、高齢者福祉施設「本能」でアルバイトをしておられ、施設入居者も成人式を祝福したいとのことで、式に3名列席されました。また、本能まちづくり委員会の「マイキモノプロデュース」で詠えられた振袖を綺

#### 天ぷら油に火が入ったら?!～本能学区防災訓練～

1月20日、本能グラウンドで本能自主防災会主催の防災訓練が行われました。今年的主要テーマは電気火災実験と天ぷら油火災実験。身近な家庭電気製品の出火要因には電気コードの接触不良とトラッキング現象によるものがあります。導線などが断線した状態で大量の電流が流れると(接触不良)発火したり、コンセントに差し込んだプラグに綿埃や湿気などが付着してショートを起こし(トラッキング現象)発火します。実験では瞬間の音と火花に驚きました。電気コードを束ねたり、ねじったりしないように、また冷蔵庫の裏側など時々掃除しましょう。次の天ぷら油の火災実験では、加熱した油に入

#### 開催!! 本ものに会える日

##### ～おいでやす染のまち本能～

2008年3月20日(祝・伝統産業の日)

am10時～pm5時 本能学区一帯

受付：本能館

介護はお一人やご家族だけで解決できない場合が多くあります。そんな時こそ、経験豊かな福祉の専門職や看護師が親身になってご相談にのります。



餅つき交流会 2007

#### 餅つき交流会と成人式に参加して

年末恒例となりました「餅つき交流会」に昨年も参加させていただきました。今回は、餅をつくだけではなく、もち米を蒸すところからの参加で、大変良い経験になりました。また、成人式も毎年参加させていただいておりましたが、今年は、特養のご入居者様3名が成人式の見学させていただきました。これら地域の行事に地域の一員として参加させていただけることは、本能学区の皆様のご理解とご協力があったことであり、老人ホームに入っても地域の行事に参加できる喜びは大変なものです。《高齢者福祉施設本能 副施設長 井上章》

麗に着られた方があり、まちづくり委員は喜びました。新成人の大人としての社会参加第1歩は2月17日京都市市長選挙の投票です。いろいろな意味で地元とのつながりを感じさせる成人式でした。



#### 「ほのぼのとした温かさ」 越後町 大内知子

今回、初めて本能学区の成人式に出席させていただいて、本当に感激いたしました。息子のお蔭でこの地域の方々とかわり合いが出来、人と人との繋がりの中での仄とした温かさを感じ、その大切さを、改めて認識させていただきました。今後とも、今まで同様、親子共々末長く、よろしく願いいたします。



った炎の高さに驚きました。家庭の台所ならすぐ天井に届きます。「もし天ぷら油に火が入ったら、鍋に蓋をしたり、濡れたタオルを鍋にかけたりして、空気を遮断し、炎が弱まった時にガスを切る。決して水をかけないこと」と教えてもらいました。最後に中京消防署の方から「天ぷらは美味しいです。火災の危険を心得た上で、恐れずに作って食べてください」とのことでした。ご参加の皆様、寒い中ありがとうございました。(ゆ)

#### ひとりごと

◎イベント大賞の受賞は当初の目的が達成できてホッとしています。活動を支えてこられた多くの方々に感謝です。(mm)

◎今年の防災訓練は、科学実験が加わりました。音やにおい、煙は改めて火災の恐ろしさを教えてくれました。(ゆ)

◎京都市長選挙本能投票所受付係りをつとめた新成人のお嬢様方、お疲れ様でした。(N村)